

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-10647

(P2001-10647A)

(43)公開日 平成13年1月16日(2001.1.16)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード(参考)

B 6 5 D 35/44

B 6 5 D 35/44

J 3 E 0 6 5

35/12

35/12

N 3 E 0 8 4

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全4頁)

(21)出願番号 特願平11-186034

(22)出願日 平成11年6月30日(1999.6.30)

(71)出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72)発明者 後藤 孝之

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

(74)代理人 100068157

弁理士 今岡 良夫 (外1名)

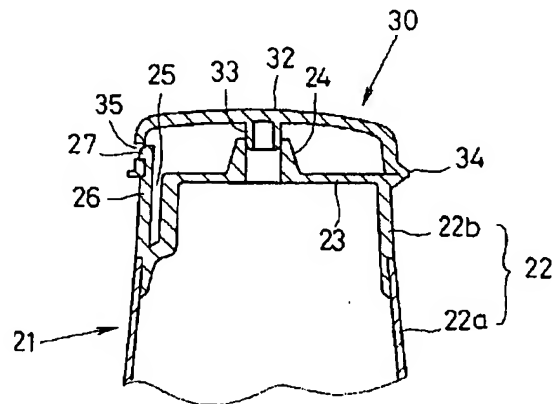
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 合成樹脂製チューブ容器

(57)【要約】 (修正有)

【課題】材料削減と容器本体内部への水の浸入防止を図ると共に、無断開口防止を図る。

【解決手段】前面および上面開放の凹部25下面から、凹部5の後面と左右両面とのそれぞれの間に間隙を介して操作板26を起立し、周壁後部を薄肉ヒンジ34を介して容器本体胴部2の上方後部に連結し、操作板26に嵌合突条27を、かつ蓋周壁31前部に嵌合孔35を、それぞれ形成し、操作板26を内方へ押圧することで操作板の嵌合突条27を蓋周壁31の嵌合孔35から後方へ離脱可能に形成し、又操作板26を凹部25の左右両面に開口防止用の破断部28を介して連結した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】上下方向全長に亘ってほぼ一様な長軸を有する上端面開放の胴部22の上端面を閉塞する頂板23の中央部から注出筒24を起立すると共に、胴部22の上方前部に前面および上面開放の凹部25を形成して、該凹部下面から、凹部25の後面と左右両面とのそれぞれの間に間隙を介して操作板26を起立した容器本体21と、

上記容器本体頂板23上へ載置した周壁31の上端面を閉塞する頂壁32から閉栓用突部33を垂下して上記注出筒24内面へ嵌合させると共に、周壁後部を薄肉ヒンジ34を介して容器本体胴部2の上方後部に連結した蓋30とを有し、

上記操作板26と蓋周壁31前部との一方に嵌合突部27を、他方に嵌合用開口部35を、それぞれ形成して、嵌合突部27を嵌合用開口部35へ嵌合させ、かつ操作板26を内方へ押圧することで操作板の嵌合突部または嵌合用開口部が蓋周壁31の嵌合用開口部または嵌合突部から後方へ離脱可能に形成したことを特徴とする合成樹脂製チューブ容器。

【請求項2】上記操作板26を容器本体頂板23よりも高く形成し、又操作板26を凹部25の左右両面に開口防止用の破断部28を介して連結したことを特徴とする請求項1記載の合成樹脂製チューブ容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は合成樹脂製のチューブ容器に関する。

【0002】

【従来の技術】図4に示すように、胴部1の上端部から肩部1aを介して口頸部2を起立すると共に、胴部1の下端部を重合接着（図示せず）して閉塞する容器本体3と、口頸部2の上面に載置した頂板4の中央部から口頸部2へ螺合させて装着筒5を垂下すると共に、頂板4の中央部から注出筒6を起立し、また、頂板4外周からカバー筒7を垂下すると共に、頂板4上面へ載置した周壁8の上端面を閉塞する頂壁9から注出筒6内へ嵌合させて閉栓用突部10を垂下し、さらに、周壁8を薄肉ヒンジ11を介して頂板4に連結した栓12とを有する合成樹脂製のチューブ容器が知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来例では、肩部1aと頂板4とは上下に二重壁を構成しているため、材料節減という観点からは一方を省略することが望まれていた。また、螺合により栓12を固定させるため、ある程度のねじ込み量が必要であり、このため栓12の高さが高くならざるを得ず、材料節減の観点からは望ましいものではなかった。さらに、カバー筒7下端と肩部1aとの間に存する間隙Sを介してカバー筒7内に入った水が、装着筒5と口頸部2との隙間および頂板4と口頸部

上面との隙間を通して容器本体内に入るおそれがあった。

【0004】請求項1記載の発明は、上下に二重壁を構成することなく、また、内蓋は口頸部へ螺合させることなく胴部から起立させるため、従来に比較して高さを低くでき、このため材料削減と水の浸入防止が図れる。

【0005】請求項2記載の発明は、操作板を開口防止用の破断部を介して容器本体へ連結することにより、簡素な構成で無断開口防止を図ろうとするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】第1の手段として、上下方向全長に亘ってほぼ一様な長軸を有する上端面開放の胴部22の上端面を閉塞する頂板23の中央部から注出筒24を起立すると共に、胴部22の上方前部に前面および上面開放の凹部25を形成して、該凹部下面から、凹部25の後面と左右両面とのそれぞれの間に間隙を介して操作板26を起立した容器本体21と、上記容器本体頂板23上へ載置した周壁31の上端面を閉塞する頂壁32から閉栓用突部33を垂下して上記注出筒24内面へ嵌合させると共に、周壁後部を薄肉ヒンジ34を介して容器本体胴部2の上方後部に連結した蓋30とを有し、上記操作板26と蓋周壁31前部との一方に嵌合突部27を、他方に嵌合用開口部35を、それぞれ形成して、嵌合突部27を嵌合用開口部35へ嵌合させ、かつ操作板26を内方へ押圧することで操作板の嵌合突部または嵌合用開口部が蓋周壁31の嵌合用開口部または嵌合突部から後方へ離脱可能に形成した。

【0007】第2の手段として、上記第1の手段を有すると共に、上記操作板26を容器本体頂板23よりも高く形成し、又操作板26を凹部25の左右両面に開口防止用の破断部28を介して連結した。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る合成樹脂製チューブ容器を図面に示す実施形態を参照しながら説明する。21は容器本体で、上下方向の全長にわたって一様な長軸を有し、かつ下端部を重合させて接着した胴部22の上端面を閉塞する頂板23の中央部から注出筒24を起立すると共に、胴部の上方前部に前面および上面開放の凹部25を形成して、該凹部下面から、凹部の後面と左右両面とのそれぞれの間に間隙を介して弾性変形自在な操作板26を頂板23よりも高く起立して、該操作板の上部前面に左右方向への嵌合突条27を形成する。

【0009】また、請求項2記載のように、操作板26を凹部25の左右両面に開口防止用の破断片28を介して連結することにより無断開口防止が可能になる。なお、上記では胴部22を一体成形した場合について説明したが、図2に示すように、胴部22を、胴下部22aと該胴下部の上端部内面へ下端部を嵌着させた胴上部22bとで形成して、凹部25と操作板26とを胴上部22bに形成することも可能である。

3

【0010】30は蓋で、頂板23上へ載置した周壁31の上端面を閉塞する頂壁32から閉栓用突部33を垂下して注出筒4内面へ嵌合させると共に、周壁31後部を薄肉ヒンジ34を介して胴部22の後部上端に連結し、また、周壁31前部に左右方向への嵌合孔35を穿設して、該嵌合孔を嵌合突条27へ嵌合させる。

【0011】上記のように、図示例では、操作板26に嵌合突条27を、かつ、周壁31に嵌合孔35を、それぞれ形成しているが、これとは逆に操作板26に嵌合孔を、かつ、周壁31に嵌合突条を、それぞれ形成してもよい。また、周壁31の嵌合孔35の前面を閉塞して開口部に形成することも可能である。嵌合孔を操作板26に形成する場合には、その後面を閉塞して開口部に形成する。なお、図示のように、周壁31の後部下端と胴部22の後部上端とを、薄肉ヒンジ34の左右両側に位置するバネ36で連結して、薄肉ヒンジを弾性反転可能に形成することも可能である。

【0012】次に本実施形態の作用について説明する。図1に示す閉栓状態から開栓するには、操作板26を押圧すればよく、すると該操作板が内方へ弾性変形して、嵌合突条27が嵌合孔35から後方へ離脱するため、操作板26を押圧した状態で蓋30を持ち上げることで、閉栓用突部33が注出筒24から上方へ離脱して注出が可能になる。閉栓するには、蓋30を押し下げればよく、すると閉栓用突部33が注出筒24内面へ嵌合すると共に、周壁31の前部下端が嵌合突条27上面に係合して操作板26を内方へ弾性変形させ、嵌合突条27が嵌合孔35内へ嵌合すると操作板26が弾性力により元の位置に復帰する。

【0013】

【発明の効果】請求項1記載の発明は、肩部を有しな

4

い、長軸が一樣な胴部から外筒を起立させるため、従来のように上下に二重壁を構成する必要がなく、このため材料節減が可能になる。また、内蓋は螺合によることなく、胴部から起立させるため、高さを低くできて上記と相まってさらなる材料削減が可能になると共に、水の浸入防止が可能になる。さらにまた、除去用帯部を除去しない限り開口不能としたため、無断開口防止が図れる。

【0014】請求項2記載の発明は、操作板を開口防止用の破断部を介して容器本体へ連結したので、簡素な構成で無断開口防止が可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る合成樹脂製チューブ容器の閉栓状態を示す斜視図。

【図2】同じく、要部断面図。

【図3】同じく、開栓状態を示す斜視図。

【図4】従来例の断面図

【符号の説明】

21 容器本体

22 胴部

23 頂板

24 注出筒

25 凹部

26 操作板

27 嵌合突条

28 破断部

30 蓋

31 周壁

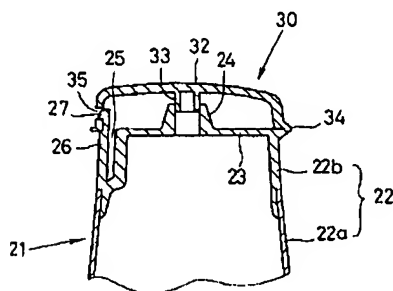
32 頂壁

33 閉栓用突部

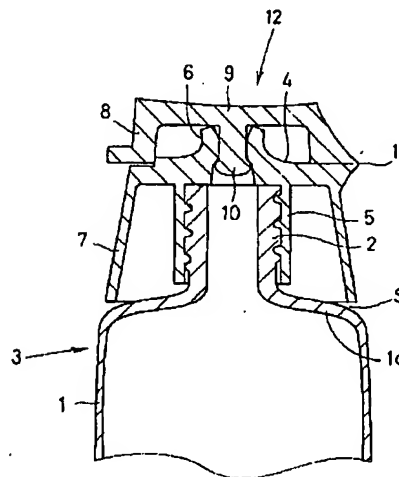
34 薄肉ヒンジ

35 嵌合孔

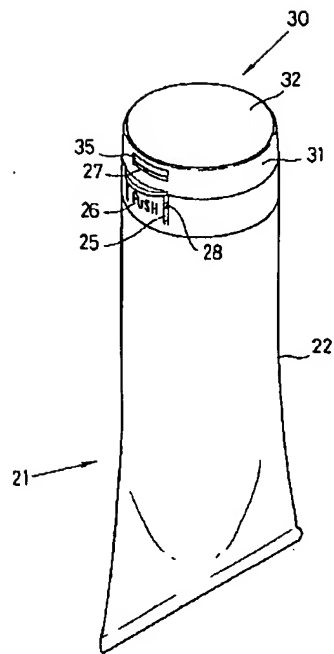
【図2】



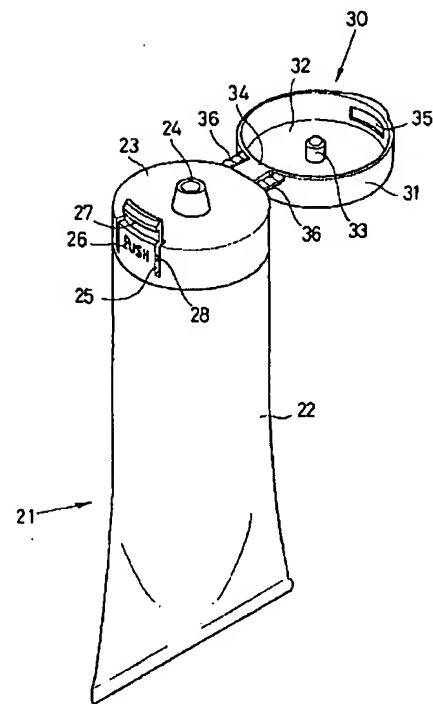
【図4】



【図1】



【図3】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E065 BA11 DA01 DD05
 3E084 AA03 AA12 AA24 BA03 CA01
 CB02 CC03 DA01 DB01 DB09
 DB11 DB13 DB18 DC03 EA04
 FA02 FA09 FC01 GA06 GB06
 GB08 GB16 KA15 KA16 LA05
 LA06 LA18 LB02 LB07 LC01
 LD01